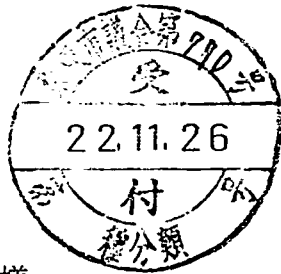


平成 22 年 11 月 26 日



栗東市議会議長  
高野正勝様

請願者

滋賀県栗東市綾三丁目 8-23-411  
さきらと歩む100人委員会  
代表 尾田 昭代

紹介議員

田村隆光  
太田浩美  
林好男  
西村政之

市の芸術文化事業の継続と発展のため市民参画と協働を求める請願書

請願の要旨

1. さきらの指定管理者の選定経過および結果について、市民が今後も納得・安心して芸術文化事業に参加・参画できるよう、市の説明責任、および議会における協議・検証を求めます。
2. これまで市民が参加・参画することで培われてきた市の芸術文化事業について、現状の事業（理念と内容）を継続し、さらに発展させるように取り組むことを求めます。
3. 今後、市の芸術文化事業の運営において、「計画・実施・評価・見直し」作業を担う、市・指定管理者・市民等が参画する「円卓会議」の設置を求めます。

請願の理由

「地域文化」とは、地域の人びとが知恵を出し合い、汗をかき、時間をかけて培ってきたものです。決して、お金を払って他人につくってもらうものではありません。実際、これまでに、栗東の芸術・文化の拠点であるさきらの中核に、市民だれもが参加・参画することができる様々な芸術文化事業（文化祭、音楽祭、演劇祭、ジュニアオーケストラ・アカデミー、創造ミュージカル、コミュニティアート・プロジェクト、御旅所コンサートほか）が生まれ、栗東固有の地域文化として育ってきています。

一方、来年度以降の芸術文化事業予算（さきら指定管理料を含む）が大幅に削減されることが明らかになっている中で、先般新しい指定管理者候補が発表されましたが、候補者による提案資料（どんな運営をするつもりか）が開示されておらず、また、「今後どのように芸術文化事業を継続・発展させていくか」という、市の意思や具体的な

方策が示されておらず、市民の間に不安や憶測が広がっています。

現在の栗東市がおかれた状況にあって、今後も、芸術文化事業を継続・発展させるためには、昨年度施行された「栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例」や、第5次総合計画に示された「個性を生かす地域文化のまちづくり」の施策方針にのっとり、市民力を大いに活用し、市民参画や協働を真に推進する具体的な仕組みや方策が早急に求められています。

市・指定管理者・市民等が、目的を共有し、ひとつのテーブルを囲み、知恵を出し合い、汗をかき、それぞれに役割を果たすことでこそ、栗東の「まちづくり」の核となる「地域文化」が育まれると考えます。

(請願者について)

## さきらと歩む100人委員会

代 表 者：尾田昭代

滋賀県栗東市糺三丁目 8-23-411 077-554-4048

趣 旨： 約30年前の文化施設の建設を懇願してきた時期、またその後の栗東芸術文化会館さきら(以下さきら)の建設準備段階においては、多くの市民が「さきらに託す夢」を市民レベルで語り、ソフト事業を先行して立ち上げ気運を高めてきました。また、開館以降も多くの市民がさきらを利用し、年間約20万人以上の利用者の方々がさきらを舞台に様々な活動を展開しています。

しかしながら、今日、栗東市を取り巻く環境も大きく変化し、さきらの運営のあり方に対しても様々な議論がなされているところです。

本会は、市内文化団体関係者を中心に、さきらに関わりのある市民など、栗東の文化振興を目指す多様な担い手が水平的につながるラウンドテーブルです。

本会での議論が深まり、新たな基盤が生まれ、待望の文化施設がこの街に生まれた当時の気運と情熱が呼び覚まされるとともに、市民の力がさきらを支える一助となることを目指します。

主メンバー：奥田京子、奥村敏子、尾田昭代◎、加藤久勝、片木留美、金井三加子、坂田久子、渋江駿介、高岡健二、高瀬秀男、高橋紘子、竹之内晃○、西川眞樹、根木山恒平、畑佐実、原田明美、前田靖代、前山茂治、村田稔

(◎代表／○副代表)

活 動 歴 2010年9月 発 足  
2010年10月 「栗東の文化のまちづくり」公開討論会

備 考 当会は、文化祭、音楽祭、演劇祭に参画する者、さきらボランティア、および、さきらの育成事業(ジュニアオーケストラ・アカデミー、創造ミュージカル)の参加者ほかの市民で構成する団体です。